

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

コロナ禍が終息の時期に来ている。地方ではまだ動きが遅いという声もあるようだが、東京ではコロナ前のような会食や立食パーティーなどが増えている。都内の繁華街では外国人の姿が目立つようになっている。この連休では新幹線も航空便も満席に近い状況のようであり、やっとコロナ禍が明けつつあるということを実感している人も多いだろう。

入国規制が緩和されたこともあり、これまで海外旅行を我慢していた人が大挙して日本にもやってきている。中国からの入国はこれから本格化するだろうから、インバウンド(訪日客)の流れはさらに拡大するだろう。

インバウンドの増加は小売業にも大きな影響を及ぼしている。特に顕著なのは百貨店である。これまではコロナ禍で厳しい経営を強いられてい

論壇

経済再建 訪日増、円安追い風

だが、コロナ禍が明けようとする中で、高額化粧品やブランド品がよく売れているというところだ。円安であることが、日本で購入するブランド品を安くしているという面もあるだろう。ただ、空港の免税店で高額ブランド品がよく売れているように、人々は海外旅行に出る時には高額のブランド品をよく購入するようだ。今や日本国内で商品を購入しても外国からの観光客には消費税などの免税措置が提供されるようなので、百貨店で高額品がよく売れるというのは理解できる。

パリのオープンランタンやロンドンのハロッズと言えば、世界的に有名な百貨店である。パリやロンドンに行った人は、これらの店にも行っただろう。これらの店の店内を見れば明らかだが、客の半分以上は海外からの旅行者である。オープンランタンは旅行者への対応ということで、ルーブル美術館に隣接するビルの中にも支店を設けている。インバウンド対応は海外の百貨店にとっても重要なビジネスであるのだ。

傾向であった。より多くの人が海外に旅行することを楽しみにするようになっており、欧州でも米国でもインバウンドの旅行者は増えている。

アジアは中でも特にインバウンドの増加が見込まれている地域だった。それはアジアの多くの国で国民の所得が顕著に上昇しており、海外旅行をエンジンにできる人の数が急速に増えているからだ。東京の地下鉄内でも、大きなトランクを持った若い東南アジアの旅行者を見かけることが増えているが、10年前ならそうした光景は見られなかった。

20年ぐらい前のことだが、香港のホテルで従業員が次のように話していた。海外旅行は自分にとって楽しみだ。日本にも行きたいが値段が高い。だから今年は安いタイに行く、と。しかし、円安の効果もあって、今や日本は高い国ではなくなっている。きつと、あの香港のホテルの従業員もタイではなく日本に来ていたのかもしれない。

コロナ禍の中で忘れてしまった人も多いようだが、元々、コロナ禍前の時期には、海外からのインバウンドの客は毎年確実に増えていた。これは日本だけでなく、世界的な

コロナ禍の終息、インバウンド客の増加、円安によって海外の人には安く見える日本の商品やサービス。こうした流れは、コロナ禍から日本経済が立ち直る重要な鍵となるように思える。